



区民の皆様へ

第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会

2018

# 協議会だより

第47号

平成30年1月1日発行

■発行 第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会/会長：青木 武雄

■編集 総務広報部会 広報委員

## 謹賀新年 本年もよろしくお祈りします！



第五地区の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、ご健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃から「第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会」にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

住民自治協議会も今年は発足9年目を迎えます。最近では記録的な大雨や風、地震など自然災害が日本列島を襲い、各地で洪水・土砂災害など被害が相次いで発生しております。

第五地区住自協では、安心・安全なまちづくりに取り組んでおります。自然災害は必ずやってきます。このため、防災意識の向上を目指して、安全防災部会では第五地区防災士会を中心に、地域の方と協力して、防災・減災のための啓発活動に努めていただいております。災害発生時には、自分たちの手で救助・応急活動を実施し、広域避難所に避難した場合の運営マニュアル作成に取り組んでおります。

また、少子高齢化が一層進む中で、高齢者や子どもに対し「自分たちのまちは、自分たちで守る」共助の精神で取り組んでおります。地域福祉ワーカーが、皆さまの取り組みのお手伝いをさせていただいております。

私どもが住む中心市街地の活性化対策、人口減少対策、空き家問題、福祉対策など課題が山積しております。

第五地区のテーマであります「誰もが 何時でも 居心地よく」の実現を目指して取り組んでまいります。

本年もたくさんの課題がありますが、皆さまのご支援・ご尽力を賜り、第五地区がさらに発展しますよう、ご協力のほどお願い申し上げます。

本年も、皆さまにとって良い年でありますようご祈念申し上げます。

第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会 会長 青木 武雄

### 生涯学習青少年育成部会（青少年委員会）

## 第42回スポーツ大会

第五地区スポーツ大会が9月10日（日）に、朝から秋晴れの絶好のスポーツ日和に恵まれ、山王小学校の校庭と体育館で行われました。

このスポーツ大会は、地域の交流や活性化、子どもさんから高齢者の皆さんが参加して触れ合う、世代間交流などを目的として、今回は42回目を迎えました。



競技種目は世代間ゲートボールとペタンクが行われました。

来賓の柘植市議ごあいさつなどに続き、優勝杯返還、選手宣誓のあと、全員がラジオ体操で体をほぐし各競技が行われる会場に移動して、熱戦が繰り広げられました。

各競技とも老若男女の混成チームで、選手は一生懸命取り組み、どの試合も接戦が展開されました。



|           | 優勝   | 準優勝   | 3位   |
|-----------|------|-------|------|
| 世代間ゲートボール | 中御所  | 岡田町   | 南石堂町 |
| ペタンク      | 岡田町A | 北石堂町B | 中御所B |

## 第62回『蟻の市』

～大勢の子どもたちなどで賑わい～

真夏の夜の風物詩、南石堂町の「蟻の市」が、今年は第62回目を迎え、8月3日（木）と4日（金）に南石堂町商店街振興組合パーキングで開かれました。大勢の子どもたちや家族連れ、会社帰りのサラリーマンやOLで大変な賑わいでした。

今年は、客席を900席に増設したにも関わらず満席で、空席を探すのに一苦労の状態でした。冷えたビールやおつまみを買って求め、それぞれ歓談したり、ステージショーに見入っていました。



子どもたちのためのアトラクションは、3日にAC長野パルセイロの選手が訪れ、4日には宇宙戦隊キュウレンジャーショーが開かれました。いずれも満席で、氣勢を上げて見入っていました。また、蟻んこ村ではポップコーン、かき氷、綿あめが配られ、射的、金魚すくいコーナーには順番待ちの行列ができていました。



街なか市場では、野菜、とうもろこし、雑貨、化粧品、鉢植え植物、おもちゃなどを買い求めていました。

第五地区住自協では、地域間交流事業で信州新町地区住自協と、お互いの地域の活性化に向けて取り組んでおり、今回も名物のジンギスカンを出店いただき大変好評でした。また、会場で交流会も開催しました。

昼間は真夏日の暑さに見舞われ、夕涼みがてら大勢の方が訪れました。今年も「蟻の市」は盛況に行われました。



## 『楽しいBOSAI (防災)』2017防災訓練

～新しいカタチの防災訓練を実施～

朝からくっきりと晴れわたり真夏日となった8月5日（土）の午後、第五地区防災士会（代表：井川 誠氏）が中心となり、中央通り表参道のかるかや山交差点から新田町交差点で防災訓練を行いました。

この企画は、子どもを中心とする若いファミリー層を対象に、震災に襲われた時に必要な「知識」や「技」を身につけてもらうための新しいタイプの防災訓練です。

ゲーム感覚で楽しみながら「消火」「知る」「救護」などを学べるワークショップに、子どもたちが積極的に参加できるよう工夫されています。



また、災害時に活躍する総務省消防庁の支援車や自衛隊の軽装甲機動車、長野市の給水車、ロータリー除雪車など「ハタラク車」13台を展示し、体験してもらうことによって、若いファミリー層が積極的に参加していました。

さらに、体験コーナーでは、災害時や避難生活を余儀なくされた時に役立つ、紙食器づくり&自衛隊の炊き出し試食や毛布で担架、バケツリレー、水消火器的当てゲーム、どんな時でも役に立つロープの結び方といったワークショップが開かれ、それぞれのブースに大勢が集まり体験していました。特に日本無線の高所作業車は、長いアームの先に取り付けられたバスケットに搭乗できるとあって、たくさん子どもたちが順番待ちの列をつくらせていました。そして、ビルの屋上くらいまで伸びたバスケットから下を見下ろして満足気でした。



「楽しいBOSAI (防災)」は、大勢のスタッフが事前準備と設営に携わり、たくさん親子が集まって体験できた催しでした。

## 環境施設見学会

### ～廃棄物の処理工程を視察研修～

家庭や事業所などから排出される大量の可燃・不燃ゴミや紙、缶、ペットボトルなどの資源物は、市内の各処理施設で、原料や製品などとしてリサイクルされて再利用されています。

8月30日（日）に、これらを処理している長野市清掃センター、直富商事(株)本社工場と市場事業所を視察研修し、地域住民の皆さんで廃棄物の処理工程を見学しました。

長野市清掃センターでは、長野市38万の人々が暮らしの中で排出するゴミを、市内7,000か所のゴミステーションから収集車によって集め、これらが可燃ゴミ、不燃ゴミ、資源物の各施設の中に搬入されます。

そして、それぞれの中間処理施設で処理され、可燃・不燃ゴミの焼却灰や残渣は、民間処分場で委託処理されます。資源物はプレスや圧縮、梱包されて、再資源化するために業者に売却されます。

次いで、事業系廃棄物の金属機械類、古紙、機密書類、アルミ缶、古着、食品リサイクルなどを処理する直富商事(株)本社工場と、卸売団地に所在し、主に市場から発生する発泡スチロールや生ゴミなどを処理する市場事業所を見学しました。

直富商事(株)は、循環型社会を創造するため、確実にゴミの量を減らし、ゴミにしないでリサイクル、リユースする最先端企業を目指すという企業理念で経営している企業です。

「全ての廃棄物を再資源化する」をモットーに、循環型社会の実現を目指して、社会に貢献しています。



## 中御所防災訓練

### ～災害発生時の的確な対応を～

恒例の中御所防災訓練が、今年は9月10日（日）の朝6時から九反公民館で、中御所区自主防災隊、班長（隣組長）ほか区民と第五地区安全防災部会員、防災士など関係者80数名が参加し、長野市中央消防署、消防団長野第五分団の協力を得て行われました。

訓練は、災害が発生した場合における相応体制の確立を図るとともに、日頃からの的確に対処できる必要知識と技術を身につけることを目的に実施されました。近藤隊長代理から「今朝5時20分頃、長野市周辺で震度6の地震が発生。公民館でも食器戸棚等倒壊、ガラス窓破損の被害あり。また、厨房より火災が発生し、会議室その他、1階と2階それぞれで取り残された人が10名程度いる」という状況説明で訓練が開始されました。

関澤副隊長が火災報知機のボタンを押し、厨房より火災発生 of 通報で、消火係が厨房入口付近で消火器による消火作業を実施。避難誘導係は、1・2階に取り残されている人を外に誘導し、負傷者2名を屋外に救出して、救護係が足首骨折者と手首骨折者に応急手当を施しました。

消防局からは、火災が発生した際、「119番通報では、とにかく落ち着いて現在の状況と付近の建物など目標物を伝えてください。司令室からの問い合わせには、わかる範囲で明確に答えてください。そのあと大きな声で『火事だ！』と付近の人に非常事態を知らせてください」との説明がありました。このやり取りをしている間に、消防局では出動準備をして、消防車・救急車が出動するそうです。訓練ではさらに、代表が携帯電話で消防局に119番通報し、実際の通報のやり取りを体験しました。

そのほか、煙体験、消火器の取り扱い、消防団長野第五分団による放水訓練・ホース脱着等の訓練を実施しました。

最後に戸谷隊長から「非常の際には住民の結束が重要です。今後も防災訓練は継続していきます。災害が発生した際には、まず隣近所の安否確認など皆さんで行ってください。自分のまちは自分たちで守るという意識を持って取り組んでください」と、総評がありました。



# 各町からのお知らせ



## 中御所 より

### お出かけサロン ～サクスの調べとお話～

住み慣れた地域で、高齢者の皆さんや家に閉じこもりがちの方が気軽に楽しんで集まれる交流の場として、「お出かけサロン」が定期的開催され、お互いに支え合い助け合う地域づくりに取り組んでいます。

6月16日（金）に中御所公民館で、民生委員の当番幹事により、久遠峯志氏のサクソ演奏会が開催され、住民の方40数人が参加しました。演奏者の久遠氏は飯綱町普光寺の住職で、中学校の校長に奉職され、退職後に得意のサクソでボランティア活動をされています。

久遠氏は「サロンなのでお茶を飲みながら、リラックスして気軽に聞いてください。」と、「浜辺の歌」をアルトサクソでしっとりと、また、テナーサクソでは力強く演奏され、会場は盛り上がりました。

また、演奏の合間に「浄土真宗の救いについて」をテーマに「死後どうなるか。どこへ行くのか」など、法話を交えて聴衆を引きつけました。



最後に「うたごえ喫茶」の雰囲気、演奏に合わせて「あざみの歌」などを皆で歌いました。

内山志げ子さん（中御所在住）は、「お出かけサロンは毎回楽しみにしています。今回のコンサートも大変良かったです。」と話し、皆さんサクソの音色に酔いしれたひと時を過ごしました。

## 中御所 より

### 観音寺四万八千日縁日 ～大勢の参拝客が訪れました～

のろのろ台風5号が日本列島に大きな被害をもたらして過ぎ去った8月9日（水）、陽が暮れてから中御所観音寺の四万八千日縁日が行われました。境内にはたくさんの露店が並び、大勢の子どもたちや参拝客で賑わいました。

午後7時から恒例の名物行事「子ども腕相撲大会」が、名行司役笠原氏の仕切りで行われ、大勢の子どもたちが階級別に分かれて勝負しました。賞品が授与されると、出番を待つ子どもたちが群がっていました。また、名物の波田産スイカと黒姫産トウモロコシは、開店して間もなく売り切れてしまい好評でした。



中御所の地名の由来は、建久8年（1197年）源頼朝公が善光寺に参拝した折に、漆田氏の館（のちの信濃守護所）に宿泊したので、御所の名がついたそうです。

また、四万八千日は、毎年8月9日の縁日に参拝すれば、四万八千日参拝したのと同じ功德があると言われ、昔から多くの参拝客で賑わってきました。そして、名物の地口灯籠は、今回初めて、展示品60点のうち20点を長野美術専門学校の生徒さんが描きました。川柳の雰囲気醸し出した絵柄で、まち中に飾られて大変好評でした。



## 事務局

第五地区の活動にご意見、ご提案がありましたら、各町の区長さんまたは、事務局にお問い合わせください。

〒380-0833

長野市大字鶴賀権堂町2201番地20

権堂イーストプラザND 1階 第一から第五地区合同事務所

TEL 262-1512 (FAX共通)

メール dai5@feel.ocn.ne.jp